

文頭のパターン (II) ・カンマで文は結べない

① 接続詞 (1)

§ 1 andの基本性質

andの働きは、

“A and A'” ➔ 左右のものを「結ぶ」

です。

andは英語の基本性質である「対称関係」を作る大切な単語です。

「テニスや野球、…バスケットボール」と、3つ以上のものを並列につなぐ場合には、

tennis, baseball ... and basketball

の形になり最後にandがきます。

文と文をつなぐ場合、

文 (SV) と文 (SV) とをカンマで結ぶことはできない
 (“S V, S V” という英文は原則として成立しない)

という大切なルールがあります。

したがって、“S V, S V ~” という箇所があったら、SVが3つ以上続いていて、最後に“and S V”が続くだろうと予想できます。

また、自分で英文を書く場合、“And S V.”のように Andを文頭で使いくいののは、“A and A'” (対称関係) のAが表面に見えないため、落ち着きにくいからです。

Notes 大原則として、andを「そして」と訳してはいけません。「そして」に近いのは“~ and then”です。なお、thenは「場面を変える」働きをする語です。

“And Then There Were None”『そして誰もいなくなった』(アガサ・クリスティの小説)

§ 2 and + S V

He watched TV, and (S V) ...

このように、カンマの後にandが続いた場合、次に文 (S V) がくるはずだ、とまず考えます。

“He watched TV, and went ...” のような場合も、「Sの支配」によって、“, and (he) went”とわかりますから、同じように考えます。

なお、“~ and,”のように、andの後にカンマがあれば、

S V and, <挿入句>, S' V'

という形(、~, が挿入された形)で対称関係を作ります。

I first met him, and, in the afternoon, met her wife.

「私はまず彼にあって、午後に彼の妻に会った」

の文では、metとmetがandで結ばれ、その間にin the afternoonがカンマではさまれて挿入されています。

§ 3 but / yet / howeverの基本意味

but / yet / howeverはすべて「しかし」と訳されることがあり、この使い分けは重要です。

but ➔ (前のことを否定して) 次に新たな情報を述べる

not A but B → (Aを否定してB) → 「AではなくてB」

は、この基本意味がはっきりと出てくる表現です。この意味で

● a small but beautiful box → 「小さいけれど美しい箱」

のように、“形容詞 + but + 形容詞 + 名詞”の場合は、butを「しかし」とだけ考えているとわかりにくくなります(☞第4章・⑥・§5・Reading〈3〉)。

同じ「しかし」でも、yetは

yet ➔ ある状態に達しようとして、達していない (未完成)

となります。yet (接続詞) で文を結ぶ場合には、butと違って、話の流れにおいて「まだ足りない部分を次に述べる」感じ(☞第2章・②・§3)。